

急傾斜地の崩壊（崖崩れ）の特徴

崖崩れは、大雨や台風等により、斜面（崖）が突然崩れ落ちる現象です。

崩れた土砂は、崖の高さ以上に離れた場所まで到達することがあります。前兆現象などを確認するなど、危険を感じたら、すばやく避難することが大切です。

前兆現象

大雨などにより、崖に水が浸透することで崖の抵抗力が弱くなることで崖崩れが発生する大きな要因の一つとして考えられます。崖崩れの発生前には、次のような「前兆現象」が見られることがあります。



- ・斜面から水が湧き出す
- ・小石がパラパラ落ちてくる
- ・斜面に割れ目ができる

これらの現象が継続することで、崖の安定性が弱くなり、崖崩れ発生の危険性は高まってきます。

崖の上部がせり出している

高く急な崖

こんなところが
危険！



崖又は崖の上部にひび割れ(亀裂)が生じている

崖から水が湧き出したり、崖の表面を水が流れている

簡単な防災措置

神奈川県砂防海岸課HP「がけ崩れとは」を参考に作成

風で地盤をゆさぶるような
大木は枝を切る

不安定な土塊をとり去る

水路の掃除をする

大雨や台風にも備え、簡単な
防災措置を実施しましょう

崩れそうな箇所に土留めや擁壁を設置する

ビニール等で、崖を覆い、雨水の浸透を防ぐ

建造物の異常は修理補強をする

雨水を崖に流さないように排水施設を設置する

